



レイズドベッドによる生産場の拡大

吉本 雄大

2017年度から近畿大学農学部と奈良県の提携により始まった「農の入口」事業は、若者から高齢者、障がい者など多くの方に対しより農業に参入しやすくなるようユニバーサル農法を研究・開発するプロジェクトである。その一つ、レイズドベッドとは立ったまま農作業が可能な栽培キットである。そこに近畿大学が企業と共同開発したポリエステル培地を組み合わせ、「綺麗・簡単・健康」な農業を実現した。これは農福連携の場に大いに貢献できるものと確信しており、耕作放棄地の活用にも利用できる。農業をもっと身近に感じてもらい、奈良農業の活性化を目指す。